



# 掃水まちづくり協議会

# たより

平成22年2月12日  
掃水まちづくり協議会  
44号

は少しでもしつかりした協議会にするために次のことを考えています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 掃水まちづくり協議会 22年度 総会

4月11日(日) 13時30分

J A 松阪本店3階  
大会議室にて

### 《住民のための協議会づくり、 行事を通して地域の連帯づく りのために》

この4年間で一番気がかりなことは、部会の一部ではありまが所期の目的どおり機能しなかったこととあります。部長が決まらなかつたり、構成する部員が集まらなかつたり、協議会役員の任期は2年としながら

#### 協議会の部会再編について

・構成する部員の任期を2年以上とした。  
・地域の代表も入れ部員の数をできるだけ少なくし、部長が統率しやすく、機能しやすい数としたい。  
・構成部員は組織の代表や地域の代表となりますが、できるだけ部会の事業に合わせ事業に関心を持った方を構成員としたい。(単なる人数合わせにしない)

#### 協議会総会の動員について

・総会には規約どおりであれば各地区からの31名からなる評議員で開催できます。しかし、大切なことはこの「掃水まちづくり協議会」が地域住民に知られ、住民のものになっているかどうかです。協議会の行事が一部の役員で運営され、一部の人だけしか情報を知らないといふのであれば何にもなりません。あくまでも協議会は地域の皆さんのためのものです。この動員の目的は、少しでも多くの方に

協議会の中味を知っていただき、何かにつけ行事には興味を持って参加していただける機会にしようとしています。

### 「できることから運動」

#### についで

#### 環境問題

プロジェクト委員  
山下町 笹山 博道



掃水まちづくり協議会の行っている「できることから運動」は本年度末で、一応終息に向かっています。私は、大変興味のある取り組みだと思っています。

山下町では、昨年12月末の資源ごみ回収でダンボールや新聞、雑誌、雑紙は、しっかりと集め、ひもで結束してきちんと正しく出されていきました。当初、私の家庭でも家族がぶつくさ言いながらやっていました。でも今では家族全員がこの運動を理解したのか協力するようになりました。皆様の家庭ではどうですか。また山下町内の住民の中には自分の畑やコンポストを使い、生ゴミの処理をし、「ゴミ減量」に取り組む家庭が多いです。最近ではスーパードライパックを持参している地域の人を多く見かけるようになり、私たちの進める「できることから運動」

が少しずつではありますが定着してきたようです。大袈裟かもしれませんが、早くも掃水校区では世界の木材の保護に役立ち、鳩山首相の世界に訴えた温室効果ガスの25%削減に大きく貢献していると思います。そう思うと、何か気持ちも嬉しくなってきます。またそのみならず回収ゴミを資源として古紙業者へ売ることによって自分たちの自治会が収入を得、地域が潤っています。

今後、取り組むか取り組まないかは個人の自由です。でも自分がどのように思うかが大切であると思います。近年日本でも、温暖化の影響と思われる洪水、竜巻などいろいろなことが起こっています。自分達にもいつ何が降りかかってくるか分かりません。是非地域の皆さんも、今後ともこの運動の大切さを忘れないでほしいと思います。

### 「西黒部凧あげ大会」に参加しました!



天候にも恵まれ、凧は大空高くあがりました。

### シリーズ自治会たより(六) 西方寺本堂の謂れ

西方寺住職  
藤田 益朗

当観智山西方寺は、もともとは「清水の森の薬師」と称された天台宗の寺院として開創されたものであります。おそらく創設当時は、伊勢街道沿いにあるこの寺も、賑やかであったと思われまふ。しかし、お伊勢さんへの主たる街道が替わったため、徐々にその賑わいも衰退し、この「清水の森の薬師」も次第に荒廃していったものと思われまふ。

この寺が浄土宗に替わったのは、永正五年(1510年)と記述されていますが、その後も衰退し続け、この現状を嘆いた当時の住職善譽玄達上人は、慶長一七年(1612年)に「千日の念仏」を誓い、これを実行

して多くの人々に念仏を勧め、西方寺の再興をなしとげました。そして寛永十一年(1634年)には、知恩院の直末寺となり、この善譽玄達上人を中興開山上人としたのであります。爾來発展していき、明治の頃には、末寺十四カ寺、檀家四百戸を有する寺院として存在してきました。しかし今日では、それぞれの末寺も独立し、現在では檀家二百戸弱の一寺院となっております。



西方寺

ところで、今、当西方寺は、檀家一同がひとつになつて、本堂の大改修事業に取り組んでおります。この本堂は、享保八年(1723年)に建立されたもので、実に築二百八十七年という古い建物であります。この本堂が建てられた時期から推測するに、当立田町出身の森田次郎兵衛直往という方がおられます。この方は、江戸に出て事業に成功し、一代で財を成した方であ

り、また当時、増上寺第三十六世顕譽祐天上人の教えに深く帰依した人で、誠に信心深い人でありました。その森田氏は、祐天上人の教えにより、故郷の菩提寺である西方寺を「不断念仏道場」にしようと砂金五百両を寄進したのであります。おそらくこれを基にこの本堂が出来上がったものと思われます。使われている材木は、殆どが樺であります。これを活かした抜本的大改修を行なうことこそ、先祖が守り抜いてきた『念仏道場』を後世に継承するものと考え改修に踏み切ったわけであります。まもなく完成を見ますが、丁度平成二十三年は、念仏の教えを我々に説き示された法然上人の八百年御遠忌の年であります。それを目前にした本年十月十六日に、この『念仏道場』の完成式を行うことにしています。

シリーズ自治会だより(七) 初めてのバーベキュー 菅生町 西出 孝

日本中で少子高齢化が進む中、菅生町でも年々、子どもの数が減っていく状況でした。しかしここ数年、若いご家族が増え、一時期に比べると、菅生町では子どもの数が増えてきています。



バーベキューの様子

楽しそうな子どもたちの姿が目にしたリ、「ワーワーワー、キヤーキヤー」という元気な声を耳にするのは、地域が華やき、活気が出て大変良いものです。

ただ、残念なことと同じ地区で暮らしていても小さい子どもたちと、子育てが終わった世代の地域の大人たちの接点は、あまりありません。昔のように地域に伝わる様々な伝統行事をおこなっていた時代とは違い仕方のないことなのかも知れませんが、このままではいけないと、小さい子どもたちを招いて地域の大人とのつながりをつくるために、自治会主催でのバーベキューをやることになりました。初めてのことで、「肉はどれぐらい用意したらいいのだろうか?」「テーブルやイスはどうする?」と事前に役員が集まり相談しました。当日、バーベキューが始まる

とたくさんの方が集まりました。屋外でみんな食べる肉や野菜は殊の外おいしく、大成功のうちには終了しました。子どもたちも喜んでくれ、これからこのバーベキューは菅生町の恒例行事になるのではないかと思います。

四国八十八ヶ所霊場 歩き遍路物語(三) 豊原町 岩塚 章

御仏がすばらしい時を下さつた。弘法大師が人生で一番大切な時間という宝を下さつたのである。

春まだ浅い三月二十日朝六時、その時が刻々とせまつて来た。もう忘れものはないだろうか。仏壇の火は消した。ガス栓は止めた。六十日間の留守にする我が家。指差して各所を見届けた。こんな長旅は生れて七十年になるが初めてのことで。出発する前になると一層何か忘れていないだろうか。やるだけのことは全てやった。心配するなよ。それが、それが何か一つでも忘れたことはないだろうかと思ひ返す。時が来た。「よし行って来る」その思いで心配が消えた。玄関の鍵をガチャリ。背負つたリュックサックが何故かずし

りと重い。笠傘、金剛杖。「二ヶ月留守をたのむよ」さあ出発。六時二十分榑田駅発の電車に乗るため我が家を後にした。駅までの三分何を考えて歩いたのか。この三分という短い時間であるが考えていたこと思っていたことが何故か字にならない。

駅に着いた。あれれ・・・玄関上り框に置いていたカメラ、カメラを忘れてしまった。これからの長旅、その間に何度と忘れものをする羽目になるのだが最初のいや第一号の忘れものになつてしまった。これからの旅記録をする旅の大切な七つ道具の一つを早々と出発して三分で忘れてしまったのである。年は取りたくないものだ。七十才にしてこのとおりの忘れ物がひどくなつて来た。こんな調子でこんな長旅が出来るのかな。いや成るようには出来ないさ。居直つてみたものの忘れた物が物だけに、「クヤシーイ」そんな思いであった。もう引き返しは出来ない。四国徳島までのダイヤはきちつと組んである。松阪からの大阪行きの特急には乗れなくなつてしまふ。徳島へ着いたら一万円くらいのカメラを買おう。徳島駅に着いて判ったことだが、駅前にはカメラ店が無いことが。そんな出発であった。